

2020
5.15
FRI

くまもとアートポリスプロジェクト

株式会社エバーフィールド木材加工場 新築設計 公募型プロポーザル

審査員長 | 伊東 豊雄 (建築家、くまもとアートポリスコミッショナー)

審査員 | 久原 英司 (株式会社エバーフィールド代表取締役)
桂 英昭 (建築家、くまもとアートポリスアドバイザー)
末廣 香織 (建築家、くまもとアートポリスアドバイザー、九州大学准教授)
曾我部 昌史 (建築家、くまもとアートポリスアドバイザー、神奈川大学教授)

架構自体が美しい、新しい木造空間

株式会社エバーフィールドは、平成28年(2016年)に発生した熊本地震の際、木造仮設住宅と木造集会施設「みんなの家」の建設に携わった。また、「くまもと型復興住宅」の建設や木造災害公営住宅の建設という新たな取組みにも携わり、地域の工務店として熊本地震からの復旧・復興に取り組んでいる。このような経験を踏まえ、災害時に住まいの再建の原動力となる木造建築産業のさらなる活性化を目指し、木造建築の担い手である大工の育成のため、技術力の向上を目的とした研修等に活用できる施設として木材加工場の整備を計画した。加工場の整備にあたっては、「くまもとアートポリス」の理念に賛同し、県産流通木材を使用した、架構自体が美しい、新しい木造空間を目指して、くまもとアートポリス114番目(民間事業としては7番目)のプロポーザル事業として公募型プロポーザルで実施された。

全国から応募のあった44件の中から、一次審査を通過した5者による公開プレゼンテーションを行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から審査方法を変更して二次審査を実施した。一次審査通過者のプレゼンテーション動画による審査や、メールによる質疑応答などリモート形式の審査を行い、最優秀賞等を選定した。

最優秀賞に『小川次郎/アトリエ・シムサ+kaa』、優秀賞に『倉掛・秋山・井上・川崎建築設計共同企業体』、そして佳作に『合同会社白川在建築設計事務所』、『水上哲也建築設計事務所一級建築士事務所』、『山下貴成建築設計事務所』を選定した。講評として伊東審査員長は「最優秀賞の提案は、最もリスクな要素も多いが、圧倒的な独創性を持った提案であることが審査員一同で共有され、実現した折には広く見学者がやってくる斬新な建築になると確信している」と述べた。

プロポーザルの概要

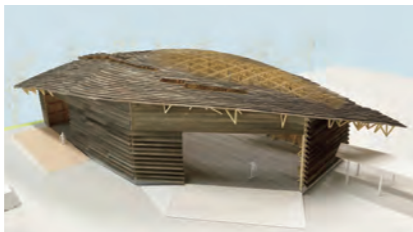
2019年 10月29日 | 応募要項発表
2020年 1月15日 | 応募締切
2020年 1月30日 | 一次審査
コロナ禍により二次審査をリモートにて実施
2020年 5月15日 | 最終審査結果の公表

事業概要

建設主 / 株式会社エバーフィールド
建設地 / 上益城郡甲佐町大字府領地内
計画条件 / 木造 平屋
延べ面積 600㎡程度
20m スパンの大空間

最優秀賞 小川次郎 / アトリエ・シムサ+kaa

小中断面の県産流通木材による「木造レシプロカル構造」を用いた、周辺環境に対し「呼吸する」ように佇む建築。小さな構造の単位が場所ごとの条件に応じ、カーブする屋根や壁になる提案。建物の施工自体が大工の技能研修の場となる。



優秀賞 倉掛・秋山・井上・川崎 建築設計共同企業体

伝統木造の継承、地域資源を生かした「アーチトラス構造」で、住宅スケールから突出しない切妻屋根の建築。トップライト、深い軒、通気ガラーを利用した自然エネルギーによる快適な作業環境の提案。



佳作 合同会社 白川在建築設計事務所

「卍キール梁」により分節された4枚片流れ屋根による水平天井を持つ建築。周辺環境を読み解き、建物内外に職人や地域の方の活動の場となる場所を提案。



佳作 水上哲也建築設計事務所 一級建築士事務所

ゾーニングに併せてサイズを調整する「ルーバー」により、屋根から多様な光を生み出す建築。まちとつながる加工場をコンセプトとした提案。



佳作 山下貴成建築設計事務所

「重ね透かし梁」を格子に組み合わせる、社寺建築に用いられる斗拱(ときょう)を応用した建築。周辺住民が短冊板にメッセージを書くワークショップを提案。



2020
11.14
SAT

株式会社エバーフィールド木材加工場 モックアップ現場見学会

開催場所 | 株式会社エバーフィールド木材加工場建設予定地

意匠、構造、そして施工の三つ巴で 木造レシプロカル構造の可能性を探る。

相互に力をかけることで支え合う木造レシプロカル構造を採用した本プロジェクト。屋根と壁を一体的につくる軸組で、大きな空間を生み出すことができる構造であり、施工技術者の研修の場としても意義のあるプロジェクトとなる。施主であり施工者でもある株式会社エバーフィールド久原氏の発案により、実物大サイズのモックアップを製作することで、今後の建築計画に生かす取り組みとした。出来上がったモックアップは、駐車場のゲートとし

て利用される予定。構造体や組み立てる順番などの検証につなげるため、3Dモデリングデータをもとにプレカットを行い、モックアップ現場での試行錯誤を行ったうえで、本番の加工場建設に移行する。今回の見学会は、設計、行政、施工関係を中心に、コロナ禍対策で人数を制限し、午前、午後の2部制で行なった。意匠、構造の設計者による説明後、モックアップ現場を見学。設計者、施工者、さまざまな視点による意見が交わされた。



施主・施工者コメント

株式会社エバーフィールド 代表取締役 久原 英司氏



今回の木材加工場は、大工の働く場をつくることも大きな目的としています。その加工場がアートポリスのプロジェクトとして参加することで、大工の技術向上につながることも考慮に入れていました。選ばれた設計は、審査の段階で施工のイメージが一番できなかったもの。木造建築の未来のため、技術力を結集してチャレンジすることに意義を感じ、前例のないものを選びました。まだまだ多くの課題がありますが、地元・熊本で、このような難しい施工が可能であることをアピールしていきたいと思っています。

設計者コメント

【意匠】有限会社アトリエ・シムサ 小川次郎氏
【構造】株式会社山田憲明構造設計事務所 山田憲明氏

今回のプロジェクトは、意匠と構造の設計者、そして施工者が意見を交わし合い、フィードバックしながら技術を共有する、建築として正しい姿を実現できています。モックアップをつくることで、解決すべき課題を検証する事ができ、新しいものづくりの形であるといえます。熊本県は木材の先進県でもあります。3Dデータでの構造解析、高性能なプレカット、そして職人の技術の組み合わせで、このような難しい建築に挑むことは意義のあることだと思います。



参加者のコメント

今回のモックアップ見学を通じて、現場の苦労が手に取るようにわかりました。こういったケースは珍しく、その考え方を学ぶことができるとても意義深いと感じました。(設計関係・男性)

事務所棟の施工をしたご縁で今回の見学会に参加しました。手加工で難しそうなのを見ることができ、さらに木材加工の可能性を感じることができた見学会でした。(施工関係・女性)

受賞者コメント 最優秀賞 小川次郎 / アトリエ・シムサ+kaa

今回のプロポーザルでは「美しく、新しい木造空間を求めよう」という、取り組み甲斐のあるテーマが掲げられていました。これほど簡潔に、かつ力強く建築の可能性を標榜したプロポーザルは、近年記憶にあり

ません。私たちの提案が、こうした高い理想に少しでも近づけたとしたら、正に望外の喜びといえます。今後は良い状態で提案を実現できるよう、努力を重ねていきたいと考えています。

一次審査通過者によるプレゼンテーション動画、
模型・CG動画は熊本県ホームページで公開しています。

